

福崎君の ワカバの蔭から

福崎かずたろう

はじめまして、福崎かずたろうです。今月からフツ定期連載を始めさせていただきます。さて話の中身であります、私は車に乗っている時間距離はてっけんの中でも一二をあらそうと自負しているわけだが、車の構造やドライビングテクニックとかは、カラキシ、解らん。お買物おばちゃんと同類ですので、そこらへんは書けまへん。まあ、車に関する軽い内容になる、のかなあ？ それでは、読んでみてのお楽しみ、書いてみての……。

第1回 犬猫蛙とび出すな

ドライブ中に不愉快になる原因に、動物の轢死体がありますな。彼らも望んでそうなのではないと思うので（中には自殺志望のものもいたりして？）、責めるわけにはいかんのですが、とにかく見苦しい。ドライバーにしてみれば、前車が急ハンドルを切ったかと思うと、いきなり現われる彼らに対して、避けるか、あるいは避けられない場合は念仏でも唱えるぐらいの事しかできません。

初回からえぐい話ですが、後の処理はどうなっているのでしょうか。1－近所の人がかたづける 2－保健所が始末する 3－風化にまかせる おそらく一番多いと思われるのが3でしょうな。誰も自動車道の轢死体など片づけたくはないでしょうし、保健所が出動しているのも見たことがありません。あわれ、動物たちはミイラとなるまで踏みつけにされ、最後は一陣の風とともに自然に還元されるのでしょう。合唱。

私自身は、まだ哺乳類、鳥類は轢いたことはありません。あなたありますか、哺乳類のヒトなんかどうですか？ 私は、一昨年、北海道で（おっとお！）リスを轢きかけたことがあります。早朝に、だだっ広い直線道路を走っていると、左からとび出てきたんです。リスはこちらの車線で立ち止まって動きません、急ブレーキは間に合わず、急ハンドルを切りました。かなり過ぎてから車は止まりました。バックミラーで後方を確認すると、おそらく金縛り状態にでもなっていたんでしょうか、しばらくのあいだ動かなかったリスは、元気に逃げていきました。ああよかった、というお話。

あなたは運転中に猫が飛び出してきたらどうしますか。おそらく我々は、急ハンドルで避けてしまうでしょうね。ところがタクシーの運ちゃんは「そのまま轢く。」らしいです。といますのも、ハンドルに生活のかかっている彼らにとって、小動物の命よりも、急ハンドルを切ったことによって急ブレーキを踏んだことによって起こるかもしれない危険の方が、避けるべきことだからだそうです。私は、我々一般ドライバーもそうならなくてはいけないのではないかと思います。動物愛護団体からクレームが来そうですが。

夏期に夜間、高速道路を走っていると、無数の蛾がものすごい勢いでヘッドライトめがけて飛来してきます。当然ぐしゃぐしゃと潰れていきます。翌日ライトの周囲を見てみると蛾の死骸でまっしろになっているものです。でもしかたありませんね、向こうが勝手にとびこんできたものですし、避けることもできませんから。

田舎道を走っていると、横のたんぼから蛙がびよおおんと跳んできました。アッという間もありません。後で見るとバンパーに蛙のふくらはぎだけがこびり付いていました。でもこれもしかたありませんね、轢きたくて轢いたわけではありませんから。

先日ダンプカーの後方を走っておりまして、突然、ダンプの下から犬の死体が現われました。まだ質感たっぷりの鮮血したたる轢かれたてといった感じで、私は反射的にセンターライン側に避けてしまいました。しかしその時、ちょうど反対車線には車が走ってきており、その後方には今にも追越しをかけそうな状態でバイクが走ってきていたのです。もし犬の死体がもう少し前方にあり、もしバイクが追越しをかけてきていたなら、接触程度ではすまなかったでしょう。ひょっとしたら私は殺人者になっていたかも・・・。

安全に避けることができるなら、これは気分的にも避けた方がよいでしょう。しかし、完全に安全な道路というのは教習所のコースぐらいしかないと思ってください。右によれば対向車左によれば自転車バイク急ブレーキは後続車、と必ずヒトが絡んできます。ヒトを傷つけないためにも、残酷なようですが、他のいかなる動物だろうと（パンダだろうがツチノコだろうが）犠牲になってもらいましょう、と極論っぽく言えばそうなります。まして生命の失せた、なきがらを避けんが為に、人が人を殺めたりすることのないように。

うーん、えらく硬い話になってしまった。